

1. 広島大学マスターズ第4回総会ご案内
2. 広大マスターズは4年間成長してきました
3. 平成21年度の市民講座と出前講座のメニューが決まりました
4. 2009年度TSS文化大学教養講座日程が決まりました
5. 豊潮丸で広島湾クルージングを愉しましたーマスターズ第6回例会
6. 「ワークショップ子どもの放課後を考える」を実施しました
7. 市民講座「バロックの美術と音楽」を行いました
8. 市民講座「子と親のための『野っ原探検講座』」が大盛況でした
9. 西村会員の出前講座「ドングリ教室」、西条と西高屋で盛況でした

1. 広島大学マスターズ第4回総会ご案内

花の季節も過ぎて、山野若葉が次第に色濃く染まる季節になりました。

新しい年度がはじまり、わが広島大学マスターズも4年目を迎えました(平成18年12月創立)。

4月は新しい仲間を迎える季節でもあります。私たちと同様、広島大学の勤務という「拘束」から自由を得た新しい仲間たちが、そして既にそのような境地にいながら入会しそびれていた仲間たちが、私たちと同じ心で広島大学や東広島市に新しい貢献を始める季節でもあります。

下記の通り、総会を開催します。今年度のプログラムは、第1部総会、第2部懇親会(歓迎会を含む)の、2部構成で行われます。ご多用中と存じますが、奮ってご参加ください。

広島大学マスターズ第4回総会

日時 5月30日(土)

第1部 総会 16:00~17:00

場所 サンスクエア東広島3階会議室

(東広島市西条西本町28-6 Tel: 082-493-8181)

次第 代表幹事挨拶

顧問・来賓挨拶

20年度活動報告/20年度広報・IT活動報告

20年度会計報告

21年度事業計画

第2部 懇親会(新入会員歓迎会を兼ねる) 17:30~19:30

場所 水軍の郷(コラボスクエアの向かえ)

(東広島市西条岡町7-27 Tel: 082-431-4777)

会費 7,000円

※同封の返信用ハガキで、出欠(5/22〆切)をご返事ください。

2. 広島大学マスターズは4年間成長してきました

代表幹事 金田 晋

昨年秋サブプライムローンの破綻にはじまった世界不況は、世界経済を一挙に谷底に突き落とししました。職を追われ、住まいを追われ、衣食がままならぬ人々が寒風のもと、悲鳴をあげている風景を、この数ヶ月間私たちはテレビや、時には現場で見えてまいりました。競争原理だけが幅を利かせ、格差を是とする、一時期流行した社会思潮も今ではすっかり影を潜めてしまいました。

今、新しい国づくり、新しい地域づくりを具体化する（評論するのではなく）力が求められているように思います。私たちは会員相互の親睦を基礎にしながら、私たちを必要としているさまざまな年齢の、さまざまな関心をおもちの方々と緊密なネットワークをつくりあげてゆく必要があります。

1. **マスターズの活動と範囲** 本会は、2006（平成18）年12月に設立されて、実質3年半が経ちました。東広島市在住の広大教職員OBを正会員として、顧問、正会員、協力会員計54名で出発いたしました。現在は正会員だけで59名です。

1) 東広島市教育委員会の生涯学習事業を担って、**出前講座**、市民講座等を開催し、地域の文化事業をサポートしてきました。**市民講座**では、a) 大人向けに、自然環境、高齢者の健康、フランス語入門やバロックの音楽と美術、先端技術等をテーマにした講座を開きました。b) 子どもたちに好奇心をもって自然体験の喜びを体感してもらう講座も開きました。本年2月には、市教育委員会が19年度以来文部科学省補助事業としてすすめている「子どもの放課後」教育の充実のためのワークショップを開きました。

2) テレビ新広島（TSS）主催の**文化大学教養講座**（於広島市）に「広島大学マスターズ：TSS文化大学教養講座」を設けて、マスターズ会員が地球環境の問題をリレー形式で11回講演しました。この講座は21年度も開講します。

3) 順調にすすまなかった事業もあります。会員の経験を**国際協力事業**に活かすために、その可能性についてJICAおよびひろしま国際センターと2年以上にわたって協議、研究をすすめてきましたが、JICAの大幅な機構改革期と重なり、具体的方策が見いだせないでいます。**地域おこし**で頑張っている、たとえば河内町宇山地区の住民と協議を重ねていますが、過疎地、中山間地の復活という大問題に私たちがどう関わっていけるか、解答はまだ得られないでいます。

4) 広島大学の**教養教育**は、第2期中期計画の目玉であり、そこへのサポートが求められていますが、どのようなかたちで実現してゆけるか今年度の課題でありましょう。また**大学院博士課程後期の学生のキャリアパス**へのカウンセリング等も、本マスターズに求められていますが、これも今年度の仕事になってくるでしょう。

2. **会員の親睦** 広大マスターズの活動の大きな柱は、会員相互の**親睦**にあります。毎年5月末の土曜日に、新会員を迎えての総会を開催します。10月には西条駅前地区で展開される大イベント、酒まつりの初日にも親睦会を開催し、これは定例化されつつあります。また近傍の名所、見学会を兼ねた例会が開かれ、国分寺跡の遺構発掘やシャープや国立醸造試験所や広島空港などの体験見学に出かけました。昨年秋には生物圏科学研究科所属の豊潮丸に乗船し、広島湾の景観を一日たのしみました。

3. **情報ネットワークは会の動脈、静脈** 私たちは、広島大学校友会と連動して、設立当初から会員向けのホームページ<http://home.hiroshima-u.ac.jp/masters/>をもち、会員向けにマスターズ通信や例会案内等を発信してまいりました。その後太田安英幹事の献身的な努力によって、広島大学マスター

ズ瓦版（市民向け）という名のホームページ http://www.geocities.jp/hiro dai_ob/index.htmlを立ち上げ、たくさんの方々からアクセスを受けています。これらに口コミ情報を加えて、私たちの活動の量と質をもっと増やし高めてゆくことが望まれています。

今年定年を迎えた方々、既に定年されながら入会の機を逸しられておられた方々、ぜひマスターズに入会して、ロカリティの色づいた文化土壌の熟成に手を貸していただきたいと思います。

3. 平成 21 年度の市民講座と出前講座のメニューが決まりました

平成 21 年度のマスターズ主催、東広島市教育委員会共催の**市民講座**のメニューが決まりました。4 講座を開講します。詳しくは、追って連絡いたします。また東広島市の広報誌「東広島市だより」にも広報されます。

1. 環境問題と私たちの生活

講師と演題：安藤忠男会員 地球温暖化と私たちの暮らし／鈴木寛一会員 食品残渣からのバイオマスエネルギー／藤井博信会員 水素エネルギーの利用／家藤治幸氏 醸造残渣からのエネルギー利用（酒類総合研究所：広大客員教授）／山本義雄会員 生物多様性と環境

対 象：市民一般

実施日：7月以降の土曜日5回（日程、会場は未定） 開講時間：13：30～15：00

2. 初めてのイタリア語講座 講師：古浦敏生会員

対 象：市民一般

実施日：7月16日（木）／7月30日（木）／8月13日（木）／8月27日（木） 開講時間：13：30～15：00（会場未定）

3. 世界の美術紀行 講師：難波平人会員

対 象：市民一般

実施日：11月10日（火）イタリア、トルコ／11月17日（火）フランス、マリ／12月1日（火）スペイン、ペルー／12月8日（火）イギリス、インド

開講時間：13:30～15:00（会場：東広島市民センター・サンスクエア東広島（予定））

講義内容：取材で訪れた世界各地の魅力的な国々と美術館の名画をやさしく語ります（スライド使用）。

4. 家族で挑戦！野っ原探検講座

講師と演題：安藤忠男会員 緑の牧場で土の世界探検／沖村雄二会員 東広島の大地探検／西村清巳会員 里山で遊ぼう／宗岡洋二郎会員 ホタルの川のナマズ捕り

対 象：市内小学校の高学年生とその家族10組。ただし4回とも現地集合。

実施日：全4回。9～11月の週末の半日程度（時間、会場未定）。

主な実習内容：山や川での遊び方、楽しみ方、学び方を教えます。

平成 21 年度**出前講座**のメニューも決まりました。出前講座は東広島市生涯大学システム（東広島市生涯学習推進本部、東広島市生涯大学システム運営協議会主催）が企画実施するもので、「市全体を、学びのキャンパスに」を合言葉に、平成 20 年度には 97 講座を登録しました。ちなみに上記運営協議会には、東広島市、東広島市教育委員会、広島大学、近畿大学工学部、広島国際大学、エリザベト音楽大学、JICA、酒類総合研究所等 20 機関が参加しており、わが広大マスターズも設立と同時に 21 番目の機関として参加しました。出前講座は講師謝金をとらず、交通費、

材料費等を実費で受講者から負担してもらいます。以下、そのメニューを列举します。

＜継続講座＞古黒瀬川一幻の西条湖：沖村雄二／美術と生活：金田晋／GHQ サムス准将の改革：戦後日本の医療福祉政策の原点：川上英之／食中毒あれこれ：川上英之／水産物最近の話題：中川平介／世界の美術紀行：難波平人／親と子の健康づくり教室：西村清巳／竹トンボ教室：西村清巳／ドングリ教室：西村清巳（以上すべて会員、敬称略）

＜新規講座＞地球温暖化と私たちの暮らし：安藤忠男／ドレミの科学：小方厚／わたなべ博士の健康・スポーツセミナー「実践ウォーキング入門」：渡辺和彦／生物多様性と環境問題：山本義雄／世界のなかのフランス語：原野昇（以上すべて会員、敬称略）

4. 2009 年度 TSS 文化大学教養講座日程が決まりました

平成 20 年度にはじまった本講座は広島市出汐の TSS 本社で開催されました。統一テーマは「農業と環境」というきわめて時宜を得た講座であり、多くの受講者を得て、盛会裡に行われました。今年度も同じ演者による講座が以下のように行われます。ご関心ある方は当講座事務局にお申し出ください。第 1 回（4 月 21 日）沖村雄二会員 地質学を楽しむー広島県の国定公園・天然記念物調査から／第 2 回（5 月 19 日）山本義雄会員 生物多様性と動物遺伝資源／第 3 回（6 月 9 日）西村清巳会員 里山の散策で感性を磨く／第 4 回（7 月 14 日）宗岡洋二郎会員 技術の発達に伴う病についてー生物学の立場から／第 5 回（9 月 8 日）岡本敏一会員 家畜とヒトの骨／第 6 回（10 月 13 日）中川平介会員 広島湾のクロダイ研究／第 7 回（11 月 10 日）山本禎紀会員 畜産科学からみえたわが国の食料、環境、家畜福祉などの課題／第 8 回（12 月 8 日）鈴木寛一会員 廃棄バイオマスのエネルギー化と地球温暖化対策／第 9 回（22 年 1 月 19 日）川上 英之会員 我国で起きた重大食中毒事件／第 10 回（2 月 16 日）太田安英会員 味と香りと食品と／第 11 回（3 月 9 日）安藤忠男会員 土の世界（仮題）

5. 豊潮丸で広島湾クルージングを愉しみましたーマスターズ第 6 回例会

10 月 18 日（土）、広島大学生物生産学部附属の豊潮丸（4 代目。256 トン。全長 40. 50m、幅 8. 50m、深さ 3.70m）見学と広島湾クルージングを、マスターズ第 6 回例会を兼ねて行いました。当日は、晴天、波穏やか、微かに色づいた島影を遠望しながら、絶好のクルージング日和でありました。

当日は豊潮丸秋期一般公開日で、広島大学水畜産学部第 8 回卒業生 16 名も乗船され、私たちのほうも会員以外に会員の家族、会員の友人たちが参加しました（会員 8、会員家族 6、会員友人 5、計 19 名）。女性や子どもの参加も多く、年齢も多彩であり、船内ははなやいでで活気があり、さまざまな話題が花開いていました。

10 時 15 分、乗船に先立って棧橋前の管理棟・3 階講義室で豊潮丸の概要説明がありました。まず練習船運営委員長植松一眞教授の全体説明の後、郷秋雄船長が練習船の構造、調査活動、当日のクルージング（海洋観測実習への体験入学）の予定などの説明をされました。11 時呉港出発、すぐに広島湾中部に出て、早瀬瀬戸を經由して西能美島に出て、江田島を周回して、大須瀬戸を經由して、15 時過ぎに呉港に帰港し、同船棧橋で解散しました。

途中で、船内の案内、機器の説明を受け、また午後には網や籠を投下して海底の生物の生息状況についての海洋観測実習を見せてもらいました。ひじょうに有意義な一日でした。もし一定の希望者があれば、毎年本企画をつづけてはどうかという声も、会員間でおこっています。

6. 「ワークショップ：子どもの放課後を考える」を実施しました

本ワークショップは、日本の教育社会学会の重鎮で、児童の放課後対策に精力的に取り組んでこられた原田彰会員が、東広島市教育委員会とタッグを組んで、表記のワークショップを企画・コーディネートされました。以下は原田会員の総括報告です。

「ワークショップ・子どもの放課後を考える」を終えて

広島大学マスターズ主催・東広島市教育委員会共催の「ワークショップ・子どもの放課後を考える」は、平成21年2月28日、関係者及び市民一般112人が参加し、第1部「放課後子ども教室」の実践報告、第2部「パネル・ディスカッション」という2部構成で開催された。

「放課後子ども教室」（文部省補助事業）は、平成19年度は東広島市内9教室、20年度は15教室で実施され、21年度は20教室、さらに全小学校区（37教室）に拡充される予定である。今回は、志和堀小・河内小・三ツ城小という3つの小学校区の「放課後子ども教室」の推進者による実践報告があった。この報告を踏まえて、「パネル・ディスカッション」では、「教室」推進者、小学校長、青少年育成行政、保護者などの立場から各パネラーの発言があり、また広島大学マスターズからは子どもの自然体験活動の指導者である西村清己氏が議論に加わった。

以下、実践報告とディスカッションの中から、「放課後子ども教室」のあり方を考えていくうえで参考になると思われる意見を要約した。

1. 実践報告は、「教室」の実施内容や形態が地域ごとに異なり、地域の特色が出る「教室」の推進が求められていることを印象づけた。
2. 「教室」の推進には地域ボランティアの協力が不可欠であるが、学習アドバイザーに人材がもっと欲しいというパネラーの訴えがあった。
3. 「教室」の存在意義はどこにあるのかを徹底して考え、「教室」がなぜ必要なのか、実践を通してその理由を見つけ出すことができた、と語る推進者の発言があった。何のための「教室」なのかに関しては、パネラーから力強い意見が出された。「教室」は単に子守りをする場ではない。何か適当にメニューをそろえればよい場でもない。やらないといけないことは何なのか、しっかりしたものを持たねばならない。
子どもが行う活動については、こういうことを身につけさせたいというねらいを持つことが大事である。このような発言があった。
4. 「教室」が実施されるようになって、小学校で見る子どもたちの姿に変化が生まれた、という発言があった。「放課後子ども教室」は、子どもたちに必要な「3間」（時間、空間、仲間）を取り戻す機会になっている、という。
5. 青少年健全育成の視点から見ると、この「教室」によって、地域の人々とのふれあいが生まれるとか、ルールを身につけることによって規範意識を高めていく、といった効果が期待される、という意見があった。
6. 「教室」では、活動の場としては、ただ自由に体を動かしていればよいのではなく、子どもが気づかないでいることを気づかせてやることが重要であり、他方、学習の場としては、学校の学習の基礎になることを身につけさせることも必要である、という意見が出た。
7. 「教室」のコーディネーターの視点から、「①継続すること、②「教室」を支える人を確保すること、③「教室」の仕事は、同じ子どもを相手にしても公民館活動とは異なること」の大きさが指摘された。また自然体験活動の視点から、子どもの活動に「①感性を育てる、②好奇心を育てる、

③人間関係づくり、④体力づくり」といったねらいをしっかり持たせることの大事さを強調する意見が出た。

8. 「大人に楽しいことが子どもにも楽しいとは限らない」、「ただ楽しいだけでなく、やりとげる楽しさを」といった発言が印象に残った。

意見のすべてを網羅できないのは残念だが、ここには、今後の実践を通じて深めていくべき課題が示唆されているように思われる。ご協力をいただいた関係者の方々に感謝の意を表するとともに、「放課後子ども教室」のさらなる発展を祈りたい。(コーディネーター・原田彰)

7. 市民講座「バロックの美術と音楽」を行いました

ヨーロッパ・バロックの音楽と美術に関する市民講座を開催しました。開催状況は次の通りです。
10月4日(土) 原田宏司会員(音楽) 出席者22名 / 10月11日(土) 金田晋会員(美術) 出席者14名 / 10月18日(土) 原田宏司会員(音楽) 出席者20名 / 11月15日(土) 金田晋会員(美術) 出席者12名。

秋はたのしい行事が多く、酒まつり(11日)、豊潮丸クルージング(18日、マスターズ例会)、生涯学習フェスタ(11月1日、広大ホームカミングデー)などと重なり、講師の都合もあって、変則的な日程になりました。出席者の知的教養はずいぶん高く、大学の専門教育レベルの質疑が交わされました。マスターズへの期待の高いことが、出席者の感想からもうかがわれました。

音楽に関しては、初回で「バロックの音響理念を求めて」と題して、バロック音楽様式の成立と本格的な器楽曲の発展について音を交えながら話し、第3回目で「バロックの大家にみる合理主義的精神」と題して、主にヘンデル、バッハの劇音楽にその特徴を跡づけました。

美術に関しては、バロックの意味、ルネサンス美術とのちがいはじめ、カラヴァッジオ、ベラスケス、ラ・ツール、ルーベンス、レンブラント、フェルメール等の代表的作品を鑑賞しました。第2回は「花の絵画」をテーマに、バロック期における花の描写とそこに隠されている寓意的世界について考えました。最後に日本の花の表現法との比較を行いました。

8. 市民講座「子と親のための『野っ原探検講座』」が大盛況でした

自然との接し方を親子で楽しく学んでもらおうと、フィールドで活動してきた4人のマスターズ会員が川や原っぱ、山で4つの講座を企画しました。

第1回(8月24日(日)) 「ホタルの川の探検とナマズ捕り」 (於・関川、宗岡洋二郎会員指導)

8組の親子22名を含む28名が志和の里で楽しい一日を過ごしました。**午前中**は宗岡先生から魚の体色変化やホタルの生態・発光のお話と実験。暗くした会場で、子供たちがコップの水に溶かしたホタルの蛍光色素、酵素、ATPを混ぜるとコップが明るく輝き、どよめきが起こりました。**昼食後**は近くの小川に出かけ、宗岡先生から魚の捕り方の手ほどきを受けた後、高学年の子は腰まで水につかりながら関川で、低学年の子は半川などの浅瀬で魚とりに挑戦しました。ナマズこそ捕れませんでした、体長30cmほどのコイや6種類もの魚、エビ、昆虫を捕まえるなどして皆大喜びでした。

3時近くに会場の志和堀公民館に戻ったら、地元のご婦人方が用意してくれたごちそうが待ちました。前日に宗岡先生が釣った体長60cmものナマズのから揚げ、志和のお米のおむすび、地野菜のてんぷらなど盛りだくさんの料理がきれいに皆のおなかにおさまりました。昼食から3時間も経って

いないのに外で遊ぶとおなかがすくのですね。初めて出会った子供達も親たちも皆すっかり仲良しになっていました。3時半ころ散会。（安藤忠男記）

第2回（9月14日（日））「みどりの牧場で土の世界探検」（於・広大附属農場、安藤忠男会員）

雨天の合間の晴天日となった9月14日（日）、前回と同じく8組の親子21名を含む29名が広大附属農場で楽しく過ごしました。午前中は土をつかった簡単な実験をしたり、ブラジルやインドの土を触りながら、クイズ形式で「土とはどんなもの？」について勉強した後、土をこねて思い思いのモノ作りに取り組みました。この日に誕生日を迎えた弟へのバースデイケーキ、農場の牛、お月見団子などなど素晴らしい作品ができました。お昼は農場の芝生で昼食パーティー。参加者が持ち寄ったおいしいお弁当を皆で食べあってお腹を満たした後は、農場の牛さん、羊さん、豚さん、山羊さんにご挨拶。それから牧場の草地まで散歩して岩石からできた土の断面を観察しました。足もとの土の中を初めてじっくり見た子供達も多かったようです。広々したところに出るとじっとしてはられない子どもたちは、草地の小高い地点まで競争で駆け上がり、息を切らせて眺めの素晴らしさに感心。そのあとは広大総合科学部、文学部、工学部の学生諸君4名の指導でヒツジとオオカミなどの牧場に関係の深いゲームを楽しみ、午後2時半に散会しました。

第3回（10月13日（日））「里山で遊ぼう」（於・七塚原高原、西村清巳会員指導）

体育の日、快晴。総勢28名（一般参加24名、学生ボランティア3名、市教委生涯学習課職員）

9時開始：倉田さんと学生ボランティアが来てくれたので、どんぐり標本用ペットボトルの準備やドングリパン、リンゴジャム、野菜スープ用の材料、炊飯用具の準備をしてもらいました。**10時：**全員キャンプ場に集合。万葉の森、約1キロを歩きます。テーマは「どんぐりの標本12種類集める」食べられる木の実を食べよう、ただし樹木は子孫を残すために実をつけています。鳥さんや、小動物さんに食べてほしいのです。人間が食べるのは迷惑だと思っています。少しだけいただきます。歩き始めるとどんぐりにはあまり注意がいかずにクリ拾いばかりに集中しました。万葉植物を横目で見ながら遠慮勝ちに解説。クロモジ、サンショウなど森の香りをかいてももらいました。**11時20分：**キャンプ場に帰って、ドングリパン生地づくり、ドングリの皮むき、きざみ、リンゴジャムのリンゴきざみ、野菜切り、ドングリパン焼きの炭火起こし、役割分担して子どもたち頑張る。仕上げは大人がしたかな。**12時30分**から、竹の串（70cm）にドングリ入りパン生地を巻きつけて炭火で焼き始める。火が強いので休まず竹串を回す。10分くらいでふっくらこんがり焼き上がる。焼き上がる順にジャム、野菜スープと一緒に昼食。みんなの笑顔を添えて美味しい食事が出来ました。ドングリ標本「アラカシ、シラカシ、クヌギ、コナラ、アベマキ、ナラガシワ、クリ、スダジイ、つぶらジイ、マテバシイ、ウバメガシ、カシワ」をペットボトルに飾って食べられるドングリ、食べられないドングリ、食べられない（渋い）ドングリを説明。みんなで後片付けして**14時終了**。お疲れ様。高木さん、福田くん、秋月さんご苦労様。（西村清巳記）

第4回：（11月9日（日））「東広島の大地探検」（於・西条龍王山憩いの森公園、沖村雄二会員指導）
指導補助 森山宏一さん（元崇徳高等学校教諭・地学）学生ボランティア：高木さん・秋月さん・福田さん
13～16時。一般参加者24名。

東広島市に発達する岩石や、シルクロード地域にあった「古地中海」（古～中世代に存在したテチス海）の古生物（アンモナイト・サンゴ・二枚貝・腕足類など）を展示するため、安藤先生をはじめスタッフ一同は憩いの森公園セミナーハウスに1時間前に集合して、打合せ。展示作業を行い、13時開講の雰囲気盛り上げることができました。

参加者が揃って定刻に開講。探検するコースの地図を配り、龍王山に分布する岩石（花崗岩。流紋岩はない。）と鉱物・遺跡のあらましについて説明した後、野っ原探検に出かけました。龍王山の南

斜面に刻まれた半尾川支流の土手「日だまりの庭」では、龍王山には分布しない庭石様の十数個の結晶片岩（伊予の青石や赤石）を観察、ヤマモモの老木、半尾川の親柱、花崗岩でつくられた古墳を見学、かつての市町村には必ずといってよいほどあった雨乞いの山＝龍（竜）王山を遠望しました。

シンボル庭園の急坂を上って展望台へ。ここでは、半尾川の出口が狭くて西条駅付近に扇状地が形成されて、お酒の醸造に使われる地下水が貯められている地層のあることや、龍王山の名水に疑問があること、そして展望台のある広い平坦地形が地滑りによって形成され、半尾川の貯水層として役立っていることなどを話しました。この平坦地形の南斜面の見晴らしのいいところにつくられた大きな小山第1号古墳では、多くの包有物（捕獲岩）を含む花崗岩にこだわった石棺の築造に驚きの声が出ていました。ちなみに、この岩石の分布は、半尾川沿いに厚さ数メートルの岩脈として発達しているにすぎません。

地滑り堆積物の前面の急坂を下って半尾川床へ。花崗岩に発達する方状節理に起因する小さな滝の2態と、僅かに南に傾斜する川床の平坦な節理面に沿って、兩岸の上部が川の中心に向けて滑っている様子を見学。キツネやイタチの糞をみながらキャンプサイトを南下して断層鏡肌と擦痕（触ってみて、手前の岩石が南へずれたことを体験。）を確かめて野っ原探検を終了（約1時間半）し、セミナーハウスへ。

見学した地質や遺跡について写真や図をつかった復習、100点余りの化石に触って昔の生物に思いを重ねながらクイズとアンケートに答え、くじ引きでおみやげの化石を手にした全員が一喜一憂。ご父兄の皆さんからも、よく訪れる龍王山の自然の不思議についていろいろ勉強することができたと、感謝のお言葉をいただきました。（沖村雄二記）

9. 西村会員の出前講座「ドングリ教室」、西条と西高屋で盛況でした

<西条・三ツ城公園>

11月5日午前9時30分より、市内の西条地区三ツ城公園で、「子育てバナナ」（団体名）からの要請により、幼児と母親を対象にどんぐり教室が開かれました。当日、西村清巳会員は、用意したいろいろなどんぐりを手に取って幼児にもわかるようなやさしい説明をした後、公園内の樹木の下を歩きながら、全員でドングリを拾い集めました。西村会員の巧みな説明と楽しいお話に40分ほどのドングリ集めはあっという間に過ぎてしまいました。その後で、集めたドングリも使いながら、ドングリこまを作って遊びました。子育てバナナの世話役の皆さんもすっかり西村先生に魅了され、三ツ城小学校内にあるコミュニティホールでの茶話会では七塚原の高原の家を訪問する約束をされていました。<中略> 広大マスターズの活動を理解していただけたのはよい収穫でした。（山本義雄記）

<西高屋・高美が丘公民館>

11月15日（土）。西高屋・高美が丘公民館で開催。講師西村会員。参加者小学生36名。西条での教室と同様、親子ともども活況を呈しました。<詳細は、広大マスターズ瓦版を開いてください。>

【広大マスターズ連絡先】

広島大学マスターズ事務局

〒739-0043 東広島市西条西本町 28-6 サンスクエア東広島 3F

広島大学サテライトオフィス内

Eメール：masters@hiroshima-u.ac.jp